

Εὐαγγέλιον

ユーアンゲリオン

知っておきたいキリスト教のことば (177)

福音書 ふくいんしょ

「福音書」とは良い知らせ、良い物語のことです。これは前回の「福音」の書き出しとよく似ています。実際ギリシア語の「ユーアンゲリオン」は福音、福音書どちらの意味にもなります。

この「ユーアンゲリオン」はもともと福音という意味で用いられていましたが、紀元後 2 世紀ごろには、「福音を記した文書」として、文書のタイトルとして用いられるようになりました。

新約聖書には、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネという 4 つの福音書が収められています。この 4 つに共通しているのは、いずれも十字架と復活が記されていることです。

このことから福音書とは、イエス様の伝記だと考えられていました。しかし研究の結果、それぞれの福音書を編集した共同体の信仰がかなり込められていることがわかりました。たとえばマタイには旧約の預言が「成就した」という記述が多くあり、ユダヤ人に向けて書かれたのだとか、ルカ福音書には回心や赦しが多く記されているので、異邦人に向けて書かれたのだなどです。

つまりそれぞれの共同体の信仰を強めるために、イエス様の言葉や行為を伝える伝承を集め、編集して物語にしたのが「福音書」なのだということです。

なお聖書が現在の形(旧約 39 巻、新約 27 巻)になる際に、正典として受け入れられなかった福音書(外典福音書)もあります。それらは古代教会の中で回覧されていたものの、教義的に受け入れられなかった文書です。

トマスやペトロ、フィリポや(マグダラの)マリア、ニコデモ、ユダ、ヘブライ人、エジプト人といった名前の福音書、一度読んでみたいと思いませんか。

次回は「復活」です。楽しみに。



「Gospel of Mark.」

7th century Book of Durrow

神の子イエス・キリストの福音の初め。

(マルコによる福音書 1 章 1 節)

